

宮島地域コミュニティだより



平成 26 (2014) 年 4 月 発行

編集・発行 / 宮島地域コミュニティ推進協議会

TEL : 44-2000 FAX : 44-2008

E-mail: miyako@hatnet.jp

ホームページ <http://miyako.hatnet.jp/>ブログ <http://miyajima1.exblog.jp/>

自主防災会防災訓練リーダー編開催

1月30日(木)午後2時、西連集会所において、宮島地域自主防災会主催で防災訓練(リーダー編)を実施しました。今回は、各区の総代、防災協力員などを対象に、地震発生を想定した内容で行いました。

まず、地震発生時に速やかに身の安全を守るための「安全行動1-2-3」、つまりDROP(姿勢を低くして)COVER(身体や頭を守って)HOLD ON(揺れが収まるまでじっとする)という短時間の統一行動を行いました。約10日前にも「広島県一斉防災訓練」として実施されましたが、よいタイミングで復習することができました。

避難訓練は、「地震に伴い火災が発生」という想定で行いました。区ごとに出席者人数の安否確認報告を行うこと



からの実践は今回が初めて。手を挙げ、大きな声で人数報告することからスタート。身が引き締まりました。

消火訓練では、消火器の使い方を学びながら、水消火器により行いました。女性の積極的な参加が印象的でした。いざというときは、男女関係なく積極的に行動しなければなりません。

救急救命におけるAED(自動体外式除細動器)の基本操作について、消防署員実演による

見学講習を受けました。質問で一番多かったのが、「島内でAEDはどこにあるのか」。基本的には公共施設に配備していますが、ホテル等にもあるようです。

廿日市市地域防災相談員の竹内詔二さんから講評と防災相談窓口のお知らせがあり、訓練の最後には災害備蓄品の試食を行いました。大変だったのが、おかゆの配膳準備。被災時に少ない資材の中、いかに短時間で多くの避難者へ配膳できるかということが課題でした。「味が薄い。」「おかゆよりクラッカーの方が食べやすかった。」など、試食の感想は様々。

『学問なき経験は、経験なき学問に勝る』

寒さが厳しい中、今回の取り組みで、地域リーダーの危機意識、さらなる防災意識の芽生えを感じた一日でした。

地区別会議開催

地震想定の上訓練を行い、まず自分の身や自分で守ること、その後、隣近所のできる助け合いなどについて話し合いました。まず、各町内会で地震や津波のときの一次避難場所を確認しましょう。

《訓練次第》

- 1 挨拶
- 2 本日の流れについて
- 3 災害時の避難跡安否確認について
 - ① 地震発生時の避難の注意
 - ② 安否確認練習
- 4 避難訓練
 - ① 通報訓練
 - ② 地震火災想定避難訓練
 - ③ 消火器の使い方
 - ④ 救急救命の方法
- 5 災害備蓄品試食



参加状況

1区	3人
2区	7人
3区	4人
4区	6人
5区	8人
6区	1人
7区	6人
8区	1人

2/7(金) 2区(参加者14名)

2/10(月) 8区(参加者6名)

2/12(水) 4区(参加者7名)

5区(参加者12名)

7区(参加者6名)

2/16(日) 1区(参加者5名)

平成25年度第4回合同部会開催 ～今年度の振り返りワークショップ～

3月6日(金)18:30～宮島市民センターにて、宮島地域コミュニティ推進協議会第4回合同部会を開催しました。今回は新たな試みとして、模造紙や付箋を用いたワークショップ形式で協議を行いました。各部会協議の要点は下記の通りです。



安心・安全部会

取組・成果

- 自主防災会活動支援…リーダー研修会、地区別会議を実施した
- 朝の声かけ運動…毎月第3月曜、良く続いている
- 交通安全教室…宮島幼稚園、宮島学園、市民センターで実施した。
- 各町内会・区での防犯パトロール実施

反省・今後の取組

- 自主防災会について
 - ・各町内での訓練から宮島地域全体訓練へ
 - ・自主防災会の意義を理解してもらうための、啓発活動をすべき
 - ・誘導を待つのではなく、まずは自分で避難するという意識作りを指導すべき
- その他
 - ・非常時には町内会の鐘の活用を
 - ・災害時の対策を日常の見守り活動に役立てていく

生活・環境部会

取組・成果

- 節電講演会…テーマが身近で、参加者も多かった
- 環境ポスター…よく目につく所に貼られている
- さくら・もみじの会の活動…さくら、もみじの育成は素晴らしい活動。もっと活動について知りたい。

反省・今後の課題

- ゴミ問題について
 - ・目立つ場所にゴミ箱を設置すべき
 - 数や場所はよく検討する必要がある
 - 観光客のマナーの問題もある
- 鹿対策について
 - ・エサをやる人がいる→まずは近所の人同士で注意を
 - ・エサやり禁止の条例を作してほしい
- その他
 - ・ミヤジマトンボの学習、広大植物園との連携
 - ・啓発活動を中心に活動したが、もっと宮島の課題に目を向けることも大事

文化・交流部会

取組・成果

- 宮島踊り…参加者が増えた、ホームページやフェイスブックを活用して広報している
- 伝統文化・行事の継承…伝統文化が継承されていくことが、島内の経済活性化などにつながっている

反省・今後の取組

- 宮島踊りについて
 - ・後継者が不足している、親が子に伝えないといけない
 - ・どうすれば来てもらえるのか、広報の工夫が必要
- 後継者不足について
 - ・島外からも継承者を呼ぶ→広報の工夫、講演会の開催→行事・祭りにスター性を
 - ・神事や祭りの考え方や背景も伝えないといけない
 - ・まずは島民が伝統文化・行事に関心を持つこと



また、今回は部会をシャッフルし、各自の所属部会以外での協議も行いました。

普段と違う手法・メンバーでの協議で、戸惑った部分もありましたが、普段の部会の中

だけでの協議では出てこないような意見が出たり、自分の所属部会以外の活動等についての理解が深まり、有意義な会議となりました。

平成26年度も活発な議論を重ね、宮島地域を盛り上げていく事業・活動を実施していきます。